高等学校

平　成　12　年　度

教育研究員研究報告書

国　　語

東京都教育委員会

平成12年度　　〈国　語〉

教育研究員名簿

学区	学校名	氏名
2	都立千歳丘高等学校	渡邉善正
2	都立新宿山吹高等学校	石岡里志
3	都立西高等学校	宗京少織
4	都立工芸高等学校	杉森共和
6	都立城東高等学校	松下愛理
6	都立小岩高等学校	小林正基
6	都立葛西南高等学校	高木佳澄
6	都立葛西工業高等学校	田村正明
7	都立松が谷高等学校	奥田裕之
7	都立小川高等学校	原忍
8	都立多摩工業高等学校	川杉哲示
10	都立稲城高等学校	小笠原みなわ

担当

教育庁指導部高等学校教育指導課　指導主事　金子一彦

研　究　主　題

社会人として必要とされる言語能力の基礎を確実に育てる指導の在り方
～情報活用を通して～

目　　次

Ⅰ　主題設定の理由 …… 2

Ⅱ　主題解明の方法 …… 3

Ⅲ　研究構想図 …… 5

Ⅳ　社会人として必要とされる言語能力の基礎を育てるための年間指導計画 …… 6

Ⅴ　指導の実際 …… 9

1　発表を通して、社会人として必要とされる
　話す力、聞く力の基礎を確実に育てる指導の工夫 …… 9

2　論理的文章を書く学習を通して、社会人として必要とされる
　書く力の基礎を育てる指導の工夫 …… 14

3　様々な文章を読むことを通して、社会人として必要とされる
　読む力の基礎を育てる指導の工夫 …… 19

Ⅵ　まとめと今後の課題 …… 24

社会人として必要とされる言語能力の基礎を確実に育てる指導の在り方
～情報活用を通して～

Ⅰ　主題設定の理由

1　高校生の言語生活

国際化、情報化等の進展に伴い、社会の状況が大きく変化する中で、我が国の言語環境も著しく変化し、言語生活や言語活動もますます多様になっている。しかし、どのように社会が変化しても、私たちが人間関係を構築し、自己の形成と充実を図るためには、言語による表現力や理解力をしっかり身に付けておくことが不可欠である。

一方、生徒の実態を見ると、会話に関しては、親しい関係の相手と会話するときには場面や相手の立場を考えることができるが、公式の場で多人数を前にしたときには、それが難しくなるようである。文章に関しては、意見や事実の説明を書く経験が少なく、論理性に気を配って書く経験に乏しい、という様子がうかがわれる。すなわち、以心伝心に頼った伝え合いをしがちなために、相手の立場や目的・場面に応じて表現を工夫し使い分けたり、あるいは論理的に表現したりするといった、社会人として必要とされる言語能力が十分とは言えないのが実態である。

さらに、最近の若者は高校を卒業して実社会に出ても、自分なりの考えをもってそれを適切に表現することができない、あるいは、人の話を聞いたり書物から得た情報を有効に活用できず、自分の考えを深めていくことが苦手であるなどといわれている。

その一因は従来の国語教育が、文学的な文章の詳細な読解に偏りがちで、社会人として必要な言語能力を十分に育成してこなかったことにもあると考えられる。

2　研究のねらい

このような状況をふまえ、国語科の授業改善の方途を探るべく、私たちは「社会人として必要とされる言語能力の基礎を確実に育てる指導の在り方」という主題を設定した。

「社会人」とは高等学校や大学などを卒業して実社会に出た人のことである。人々は実社会において社会人として、職業やボランティアなど様々な役割を担うことになる。「社会人として必要とされる言語能力」とはそうした社会生活の中で必要とされる能力である。その具体的能力として、以下の四つを考えた。

ア、筋道や根拠をはっきりさせ、適切な論理展開をする能力
イ、相手の立場や目的・場面に応じて表現方法を工夫する能力
ウ、自らの課題意識をもって主体的に表現する能力
エ、問題を解決し、それを自分の思考や表現に活用する能力

次に、副題の「情報活用を通して」について述べる。私たちは情報が次のような過程を通して活用されていると考えた。

① 情報活用の動機を明らかにする
② 入手手段を考えたり調べたりして、情報を入手する
③ 必要な情報を選択・整理する
④ 様々な情報を比較・検討・分析・批判する
⑤ 情報を加工し、自分なりに再構築する
⑥ 発信手段を考え、情報を発信する
⑦ 目的の達成を確認する

教師の話を聞くことが中心だった学習活動を見直し、研究主題を達成するには、課題の設定・情報の収集・話合い・発表・評価という学習活動を取り入れることが効果的である。情報を活用する過程を通して学習する場合、生徒の動きはその一連の学習活動と同じになる。学習指導要領における言語活動例も同様に情報が活用される過程にあてはまる。そこで「情報の活用を通して」を副題として設定した。

Ⅱ 主題解明の方法

1 研究の方法

本研究では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三領域における社会人として必要な言語能力を、新学習指導要領の必履修科目「国語総合」の内容を念頭に下記のように分類し、年間を通して育成することを目標とした。

	筋道や根拠をはっきりさせ、適切な論理展開をする能力	相手の立場や目的・場面に応じて表現方法を工夫する能力	自らの課題意識を持って主体的に表現する能力	問題を解決しそれを自分の思考や表現に活用する能力
話すこと 聞くこと	筋道を立てて意見を述べること（ア）	目的や場に応じて、効果的に話したり、的確に聞き取ったりすること（イ） 相手の立場や考えを尊重して話し合うこと（ウ）	様々な問題について自分の考えをもって意見を述べること（ア）	課題を解決したり考えを深めたりするために話し合うこと（ウ）
書くこと	論理的な構成を工夫して、文章にまとめること（イ）	相手や目的に応じて題材を選び、効果的な表現を考えて書くこと（ア）	自分の考えを文章にまとめること（イ）	優れた表現に接してその条件を考え、自分の表現に役立てること（ウ）
読むこと	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約したりすること（ア） 文章を読んで、構成を確かめること（イ）	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと（ウ）		文章を読んで表現の特色をとらえたりすること（イ） 様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりすること（エ）

さらに次の表のとおり、先述の情報の活用過程に沿って、学習指導要領における言語活動例を位置付けて、指導計画を工夫した。

情報の活用の達成				①情報活用の動機を明らかにする	②入手手段を考えたり調べたりして、情報を入手する	③必要な情報を選択・整理する	④様々な情報を比較・検討・分析・批判する	⑤情報を加工し、自分なりに再構築する	⑥発信手段を考え、情報を発信する	⑦目的の達成を確認する
学習活動				課題設定	情報の収集	話合い			発表	評価
学習指導要領における言語活動例	国語表現Ⅰ		ア	自分の考えを				明確にして、	スピーチ、発表、討論などを行うこと	
			イ		観察したことや調査したことを	記録したり、		まとめて	報告したりすること	
			ウ					相手や目的に応じて、案内、紹介、連絡などのための話をしたり文章を書いたりすること		
			エ		身近にある様々な表現を集めて		その効果などについて考えたり、		生徒の表現活動について	自己評価や相互評価を行ったりすること
	国語総合	A話すこと聞くこと	ア		話題を	選んで、			スピーチや説明などを行うこと	
			イ		情報を収集し	活用して、			報告や発表などを行うこと	
			ウ	課題について	調べたり		考えたりした	ことを基にして、話合いや	討論などを行うこと	
		B書くこと	ア		材料を	選んで	考えをまとめ、	書く順序を工夫して	説明や意見などを書くこと	
			イ					相手や目的に応じて適切な語句を用い、手紙や通知などを書くこと		
			ウ		本を		読んで		その紹介を書いたり	
				課題について	収集した情報を	整理して			記録や報告などを書いたりすること	
		C読むこと	ア		文章に表れたものの見方や考え方などを		読み取り、	それらについて話し合うこと		
			イ		様々な古典や現代の文章を		読み比べること	考えを広げるため、		
			ウ	課題に	応じて必要な情報を		読み取り、	まとめて	発表すること	

2　研究の内容

本研究では、新しい学習指導要領の必履修科目「国語総合」を念頭に置き、三つの領域の年間の学習計画を立て、各領域の単元案を作成し、授業実践を行った。

「話すこと・聞くこと」の領域では、「目的や場に応じて、自分の考えを論理的に話し、相手の話を的確に聞き取る学習」という単元を設定した。自分たちの学校の中の身近な問題点を考えていくことをねらいとしている。グループごとにそれぞれの課題を設定し、各自が学校内外での聞き取りによって情報を収集し、ワークシートによって話し言葉特有の論理構成を工夫し、口頭による発表と評価を行った。この学習活動によって、相手や場面・目的に応じて論理的に会話する能力を身に付けることを目標とした。

「書くこと」の領域では、「ワークシートを使って、論理的な文章の書き方を学ぶ」という単元を設定し、日本文化を紹介することを課題とした。グループごとにそれぞれの課題を

考え、図書館を活用して情報を収集し、ワークシートを用いて書く順序を工夫して文章化した。さらにその文章を社会人に読んでもらい、評価をしてもらった。この学習活動では特に、ワークシートによって文章の構造化を行い論理的な文章を書くこと、相手に応じた分かりやすい文章を書くことに目標を置いている。

「読むこと」の領域では、「古典や様々な現代の文章を読み比べる」という単元を設定した。古典の作品を手がかりに様々な文章を読み、事例を検討して自分の考えを広げ、それを発表するという学習活動を行った。これによって、古典の作品から論理性を読み取り、それを応用させて様々な文章の論拠をとらえ、論理的に読む力を身に付けることを目標にした。

Ⅲ　研究構想図

①社会の情報化・国際化

②生徒の言語生活・言語能力

③新学習指導要領改訂の趣旨

社会人として必要とされる言語能力の基礎を確実に育てる指導の在り方
～情報の活用を通して～

社会人として必要とされる言語能力とは

ア、筋道や根拠をはっきりさせ、適切な論理展開をする能力
イ、相手の立場や目的・場面に応じて表現方法を工夫する能力
ウ、自らの課題意識をもって主体的に表現する能力
エ、問題を解決し、それを自分の思考や表現に活用する能力

領域	話すこと聞くこと	書くこと	読むこと
今回重視する能力	ア　論理性 イ　相手や場面	ア　論理性 イ　相手や場面	ア　論理性
テーマ	自分たちの学校について考える	日本文化を紹介する	文章を論理的に読む

情報の活用過程		学習活動				
	①動機付け		課題研究	課題設定	課題設定	ガイダンス
	②入　手		情報収集	聞き取り調査	図書館の利用	本文読解・収集
	③選択・整理		話合い	ワークシート	ワークシート	事例検討
	④比較検討分析批判			話し言葉の論理	書く順序の工夫	
	⑤再　構　築			構成台本	文章化	
	⑥発　信		発　表	発表	社会人に発信	発表
	⑦フィードバック		評　価	相互評価	社会人の評価	意見交換

授業の活性化、言語による表現力・理解力の定着

Ⅳ　社会人として必要とされる言語能力の基礎を育てるための年間指導計画

1　作成上の留意点

(1)　この年間指導計画は、情報の活用を視点として、社会人として必要とされる言語能力の基礎を確実に育成するために設定したものである。

(2)　この年間指導計画は、新学習指導要領「国語総合」（４単位）を想定して作成した。

(3)　新学習指導要領「３内容の取り扱い」に示されている言語活動例を各単元に位置付けた。

2「国語総合」話すこと・聞くこと年間指導計画（15単位時間配当）※下線部は情報活用の視点

学期	単　元	時数	目　標	指導事項	学習活動
1	話合い	5	・筋道や根拠をはっきりさせて、適切な論理展開で話す。 ・相手の立場や考えを尊重して、互いを高め合うような話合いをする。	◇グループとしての意見を、根拠となる情報に基づき、適切な論理展開で述べさせる。 ◇相手の意見を自分たちの考えと比較させる。 ◇各グループの意見を基に話し合わせ、より良い結論を導く。	◇テーマについて必要な情報を集め、グループごとに話し合い、意見をまとめ発表し合う。 ◇共感する点や疑問点をまとめる。 ◇意見を比較、検討しながら話し合い、一つの結論にまとめる。
2	発表と聞き取り 指導の実際１参照	6	・構成や表現を工夫して、自分の考えを論理的に話す。 ・目的や場に応じて、相手の話を主体的に聞き取る。	◇情報を的確に理解し、発表のための再構築をさせる。 ◇話す際の構成や表現の工夫を考え、筋道を立てて発表させる。 ◇相手の話を主体的に聞き取りまとめさせる。 ◇発表や聞き取りの要点をまとめさせる。	◇課題意識を持って情報を収集、整理する。 ◇構成や表現を工夫して発表を行う。 ◇メモを活用して発表を聞き取り、論点を整理して自分の考えをまとめる。 ◇発表や聞き取りの自己評価を行う。
3	スピーチ	4	・課題意識をもって情報を収集し、自分の考えを進んで話す。 ・目的や場に応じて、表現を工夫して話す。	◇課題意識を持って情報を収集し、自分の考えをまとめさせる。 ◇表現を工夫して、積極的に話させる。 ◇相手の話を聞き取らせ、相互評価させる。	◇話題について情報を収集し、自分の考えをまとめる。 ◇表現を工夫してスピーチを行う。 ◇相互評価と自己評価を行い課題をまとめる。

3「国語総合」書くこと年間指導計画（30単位時間配当）

※下線部は情報活用の視点

学期	単　元	時数	目　標	指導事項	学習活動
1	自己ＰＲ文を書く	2	・進んで文章を書く。	◇自分の特徴をつかんで文章に書かせる。	◇自己ＰＲ文を書き、グループごとに壁新聞の体裁にまとめる。
	短文を作る	3	・正確な文章表現力を身に付ける。	◇漢和辞典の活用の仕方を身に付けさせる。	◇二字熟語を用いて短文を作成する。
	新聞記事をまとめる	3	・論拠や筋道のはっきりした文章を書く。	◇５Ｗ１Ｈに気を付けて文章を書くように意識させる。	◇用意した新聞記事を５Ｗ１Ｈに気を付けて要約し、相互評価する。
2	論理的な文章を書く 指導の実際２参照	6	・情報を活用して、論理的な文章を書く。	◇論拠や筋道のはっきりした文章を書かせる。 ◇論理展開の型を身に付けさせる。	◇グループごとに日本文化について図書館等で調べる。 ◇ワークシートを用いて論理的文章を作る。
	パソコンを使って本の紹介文を書く	4	・パソコンを用いて、選んだ題材について自分の考えを書く。	◇題材を選んで自分の考えを論理的に書かせる。	◇新刊紹介文を読み、図書を推薦するための文章を作り、教室に掲示する。
	レポートを書く	4	・記録や報告の文章を書く。	◇調査したことを分析させる。 ◇客観的で簡潔な表現を心掛けさせる。	◇テーマについて正確に調査する。 ◇レポート形式の報告書にまとめる。
3	課題を探究しその報告を書く	8	・課題を探求し、報告文を書く。	◇問題解決のために情報を収集させる。 ◇妥当な論理展開に留意させる。 ◇相手に分かりやすい書き方を工夫させる。	◇グループごとに、地域振興策を考え、図書館や地域などで調べ学習をする。 ◇振興策をまとめて、分担してレポートを作り、発表する。

4．「国語総合」読むこと年間指導計画（95単位時間配当）※下線部は「情報活用」の視点

学期	単　元	時数	目　標	指導事項	学習活動
1	随想 小説	6 8	・表現の特色をとらえる。 ・人物・情景・心情を読みとる。	◇辞書を活用し、慣用句や特色のある表現を使えるようにする。	◇文中の特徴的な語句で短文を作る。 ◇辞書を用いて意味調べをする。
	評論 －人文科学 自然科学	6 6	・構成をとらえる。 ・内容を読み取り要約する ・情報を活用して公正適切に判断する能力を高める。	◇読んだ内容に対する意見の構築のため、参考文献に当たらせる。 ◇ブックディベートをさせる。	◇構成を図式化する ◇内容を要約する。 ◇学校図書館を利用し、自分の意見の参考になる文献を探す。
	漢文 －故事成語 中国思想	8	・訓読のきまりをおさえる。 ・表現の特色をとらえる。 ・言語文化に対する関心や理解を深める。	◇書き下し文から、日本語に与えた影響を指摘させる。 ◇日本文化としての漢文を意識させる。	◇現代の日本の思想への影響を話し合い、事例を調べる。
2	詩歌	6	・文章に現れたものの見方や考え方を読みとる。	◇朗読をさせる。	◇気に入った詩歌を調べて、紹介する。
	和歌・歌論	8	・文語のきまりを理解する。	◇歴史的仮名遣いに慣れさせる。	◇うたの享受される場を現代と比較する。
	中国の詩 －唐詩 古文 －随筆物語	6 10	・言語文化に対する関心や理解を深める。 ・文語のきまりを理解する。	◇文語のきまりをおさえる。 ◇漢文の古典への引用について理解させる。	◇暗唱をする。 ◇対句などの表現を自作する。
	古文 ・現代文 指導の実際3	6	・様々な古典や現代の文章を読み比べ、考えを広める ・生活や人生についての考えを深める。 ・情報を活用し、公正・適切に判断する力を育てる。	◇古典から学習した内容を、現代の事例に応用する。 ◇読み取った内容を考察し、自分の意見を構築する。	◇役割分担の上朗読する。 ◇自分の意見の根拠となる参考文献を図書館から探す。
3	古典 －軍記物語 中国史伝	8 8	・心情や情景をとらえる。 ・ものの見方考え方をとらえる。 ・生活や人生についての考えを深める。	◇現代との視点や意識の違いを登場人物の言動からとらえさせる。 ◇古典に現れた美意識をとらえさせる。	◇同じ場面での現代人の言動を調査・比較する。 ◇内容や人物に対する共感・反感を考え発表する。
	小説 －翻訳小説	9	・情報を活用し、適切に判断する力を身に付ける。	◇原典と訳文（抄訳）の主眼や表現の違いをとらえさせる。	◇自分の言葉で訳文を再構築し、抄訳を作る。

V　指導の実際

1　発表を通して、社会人として必要とされる話す力、聞く力の基礎を確実に育てる指導の工夫

1．単元名　目的や場に応じて、自分の考えを論理的に話し、相手の話を主体的に聞き取る学習

2．教材　様々な言語情報（話合い、発表、聞き取り）

3．単元の目標

(1)　目的に応じて、情報を理解し、整理することができる。

(2)　構成や表現を工夫して自分の考えを論理的に話すことができる。

(3)　目的や場に応じて、相手の話を主体的に聞き取ることができる。

4．単元設定の理由

現在の高校生は、情報化社会の発達に伴い、新しい情報機器を積極的に取り入れ、仲間同士で多様なコミュニケーションを図っている。しかし、我々が行った「話すこと・聞くこと」についての意識調査では、自分の考えや気持ちを相手に分かってほしいという欲求は強い反面、論理的に話すことは苦手であり、そのための工夫もあまりしていない。また、論理的文章の聞き取り調査では、話の論理構成を理解する力が不十分であり、聞き取った内容を再構成し、自分の意見をまとめることが十分ではない等の実態が明らかになった。

平成11年３月に告示された高等学校学習指導要領では、「互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う力を育成すること」と、「社会人として必要とされる言語能力の基礎を確実に育成すること」を重視して目標の改善が図られ、具体的な内容として音声言語指導の充実が示されている。我々は、上記のような高校生の言語生活の実態を踏まえ、社会人として必要とされる音声言語能力の基礎とは、「考え方や立場の異なる人の意見や多様な情報を的確に聞き取り、それらを主体的に判断したり、目的や場に応じて筋道や根拠をはっきりさせ自分の考えを論理的に話したりする力」と考えた。

今回、「自分たちの学校を考える」というテーマで発表するという学習活動を選んだのは、学校が生徒たちにとって最も身近な生活の場であり課題意識を持ちやすく、情報の活用という視点から比較検討する対象があり、多様な情報の聞き取りが可能だと考えたからである。話し手から聞き手へ一方的に行われがちな発表の授業に、主体的に聞き取る学習と相互評価や自己評価等の評価活動を積極的に導入した。また、表現や構成の工夫を再検討して発表を修正する機会を設けることで、授業の活性化と指導事項の徹底が図られることを期待した。

以上のような視点から、情報を整理・活用しながら、社会人として必要とされる言語能力の基礎―構成や表現を工夫して自分の考えを論理的に話す力・相手の話を主体的に聞き取る力―の育成を図っていきたいと考え、本単元を設定した。

5．学習活動の概要　（６時間）

(1)　第１次・導入・準備　（３時間）

①　発表や聞き取りの際に必要な工夫や留意点について理解するとともに、発表や聞き取りの能力についての現時点での自己評価を行う。

②　発表する題材「自分たちの学校について考える」の概略を理解する。

③　５人一組のグループに分かれ、テーマと各自の役割を決める。（ワークシート１）
具体的なテーマ例･･･学習、クラブ活動、学校行事、校則、進路、施設・設備等
各グループは分担を決めて、次回までに比較検討できるような情報について他校の生徒などから聞き取りを行い、その内容をまとめてくる。（ワークシート２）

④　収集した情報を分析・吟味し自分たちの考えを論理的にまとめる。（ワークシート３）

⑤　④で作成した内容に基づいて、発表を行うに際しての適切な表現や、話し方、構成の工夫について、教師が示した資料を参照しながら検討し、まとめる。（ワークシート４）

(2)　第２次・展開　（２時間）

①　『本時の指導』　参照

②　第５時は、第４時と同様に発表と聞き取りの学習を行う。
各グループは事前に、第４時の相互評価や自己評価を参考にして、より適切な表現や話し方、構成の工夫について再検討し、内容を修正しておく。
発表者と聞き手のグループは、第４時と異なる組み合わせとし、聞き手は、発表評価用紙と聞き取り用紙を作成する。

(3)　第３次・まとめ（１時間）
発表や聞き取りについて自己評価用紙に記入し、自己の課題をまとめる。

６．指導の工夫

(1)　高校生にとって主張や意見の出やすい身近な題材を設定し、各グループに関心のある具体的なテーマを決定させることで、生徒の主体的な学習活動を促した。

(2)　５人一組のグループ学習と個別学習とを組み合わせ、限られた時間の中で学習者一人ひとりに話すこと、聞くことの学習活動を保証した。

(3)　各グループに２回ずつの発表をさせることで、１回目の相互評価や自己評価を参考にして表現や構成の工夫を再検討し、発表を修正する機会を与えた。

(4)　発表の際の構成台本を作成させることにより、話し言葉特有の論理的構成を工夫させた。

(5)　相互評価と自己評価等の評価活動を積極的に導入することによって、発表と聞き取りの際の工夫や留意点についての理解を図った。

７．本時の指導（第４時）

(1)　本時のねらい

①　情報を整理し、自分たちの考えを適切な表現で論理的に発表できる。

②　相手の話を主体的に聞き取り、それに対する自分の考えをまとめることができる。

③　効果的な話し方や表現、構成の工夫について、理解を深める。

(2) 本時の学習の流れ

学習の流れ			教師の指導・助言（◎留意点、◇◆評価）
	◇ 発表者（5人）	◆ 聞き手（5人）	◎ ワークシート3、4と聞き取り用紙、発表評価用紙を各自に用意させる。
1	グループごとに向かい合って席に着く。		
2	聞き手の前に出て、発表を行う。（10分程度）	メモを取りながら、話を聞き取る。	◇ ワークシートを活用して発表しているか。 ◇ 構成や表現を工夫しているか。 ◆ 相手の話を集中して聞いているか。 ◆ メモが的確に取れているか。
3	質疑応答を行う。（3分程度）		◆ 疑問点や確認すべき点について積極的に質問しているか。 ◇ 質問について的確に答えているか。 ◎ 全体の状況を見ながら、時間配分を考慮し、号令をかける。
4	発表を振り返り、自己評価を行う。	発表評価用紙を記入し、発表者に渡す。（2分）	
5	評価用紙を基に反省点を話し合う。	聞き取り用紙を記入する。（8分）	◎ 反省点をまとめさせる。 ◆ 相手の話を的確に理解し、自分の考えをまとめることができているか。
6	発表者と聞き手が交替して、2から5までの学習活動を行う。		◎ 聞き取り用紙は、教師に提出させ、評価を行う。

(3) 評価の観点

① 話し手は、構成や表現を工夫して自分の考えを論理的に話すことができたか。

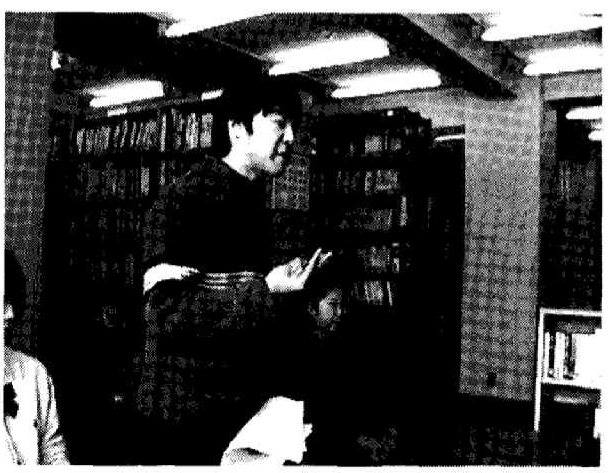
② 聞き手は、相手の話を主体的に聞き取り、自分の考えをまとめることができたか。

③ 発表と聞き取りの工夫や留意点について、理解を深められたか。

8．生徒の学習状況

(1) テーマ設定

「自分たちの学校を考える」という身近なテーマを設定したためか、グループの個別テーマは順調に決まっていった。情報収集ではほとんどの生徒が主体的に調査を行い、自分たちの主張に有効な情報を選択できた。



(2) 情報整理

個人の集めた情報を整理統合するのが目的であったが、情報を整理するということに慣れていない生徒が多いなかで、各個人が集めたものを討論し、情報の取捨選択、再構築を行っていた班もあった。

(3) 構成台本作成

ほとんどの班がヒントのプリントを参考に、自分たちの主張をどうすればより効果的に相手に伝えられるか積極的に討論し工夫していた。

(4) 発表聞き取りの学習

同一テーマを2回発表することで全員が発表できたため、一人ひとりが主体的に取り組むことができた。発表では、台本を見ながらの発表もあったが、全体としては予想以上に意欲的に生徒は取り組んでいた。聞き取りでは、ほとんどの生徒が真剣に話を聞き、熱心にメモを取っていた。相手の話を全部書き写そうとしたり、後から見て意味が分からず、メモの意味がなくなってしまう生徒もいた。最後に発表についての相互評価を行った。

(5) 質疑応答

活発に行われていたが、単発に終わることもあり、現時点では質疑応答によって議論を深めていくことは難しいようであった。

(6) 自己評価

自己評価用紙に、様々な項目について評価を行い、話すことや聞くことについて大切だと思うことや、自分のこれからの課題について記入した。

9．考察

(1) 成果

① 発表について

ア 話し言葉の特質を踏まえて、論理的な構成を工夫しようとする姿勢が見られた。

導入段階で全体の概要に触れたり、自分たちの主張をはっきり示した上で本論に入ったり、主張の根拠となる事柄の数をあらかじめ明示した上で具体的な内容に触れていったりするなど、聞き手が理解しやすい構成を工夫して、筋道を立てて話そうとする態度が見られた。

イ 聞き手を意識した効果的な表現の工夫が見られた。

聞き手の一人に質問を投げかけることから発表を始めたり、発表の途中で相手の反応を見ながら言葉を言い換えたり、有効な言い回しを何度も繰り返すなど、主張をより強く印象づけるための表現の工夫が見られた。

→ア、イについては、ワークシート3、4やワークシート4作成時の参照資料が効果的であったと考えられる。

ウ 発表後の相互評価が有効であった。

発表後に渡された相互評価に基づき、自分たちの課題についての話合いが各グループで活発に行われ、2回目の発表に向けて意欲的に修正を行ったグループが多数出た。実際、2回目の発表の相互評価は、1回目の発表と比べて大きく向上していた。

② 聞き取りについて

ア 相手の話を集中して聞く態度が見られた。

聞き手にとってもテーマが身近なものであったため、うなずいたり、熱心にメモを取ったり、発表を真剣に聞く生徒が多く、発表後の質疑応答も活発に行っていた。

イ 聞き取りの工夫や留意点について、学習全体を通して大きな意識づけが図られた。

学習後の聞き取りについての自己評価に向上が見られた。これは、2回の発表のみならず情報収集の段階から聞き取りの工夫や留意点を提示して指導し、指導事項の徹底が図られたためと考えられる。

ウ 相手の話を主体的に聞き取り、自分の考えをまとめようとする姿勢が見られた。

メモを取りながら論点をまとめたり、疑問点や確認すべき点について積極的に質問したりすることで、発表内容に対する自分の考えをまとめようと努めていた。

今回の授業では、題材が生徒にとって身近で親しみのあるものであり、情報収集の方法も聞き取りを中心としたものであったため、発表者も聞き手も意欲をもって主体的に学習に取り組んでいた。2回の発表・聞き取りや、学習前と学習後に行った自己評価を比較して、構成や表現を工夫して自分の考えを論理的に話すことや、相手の話を主体的に聞き取ることについて、能力や意識の向上が図られたことは、本研究の大きな成果である。

(2) 今後の課題

① 情報の活用

収集した情報を十分に活用しているとは言い難く、自分たちの主張を裏付ける具体的な根拠や客観的な事実の提示が不十分な面が見られた。目的に応じて、どこでどんな情報をどのくらい収集すればよいか、さらにそれを選択・整理し、主張の中にどう位置付けていくかという、情報の活用についての具体的な指導を繰り返していく必要がある。

② メモの指導

聞き取りの際にはメモが重要な役割を果たすのだが、必ずしもうまく活用されていなかった。効果的にメモを取ることは、そのまま論理的に聞く学習につながる。今後は、話を聞きながら的確にメモを取ることを「聞くこと」の学習の一つとして位置付け、具体的に指導をしていくべきであろう。

③ 質問の仕方

本題からそれた枝葉末節の事柄に関する質問もあった。相手の主張やその根拠について確認・整理することで自分の考えをまとめ、テーマに主体的にかかわっていくような質問や、相手のよさを引き出し、互いに発表内容を深め合うような創造的な質問をいかにさせていくかが今後の課題である。

④ 総合的な学習との関連

情報を活用しながら、構成や表現を工夫して論理的に話すことや、相手の話を主体的に聞き取り自分の考えをまとめることは、社会人として必要とされる言語能力の基礎である。今後は、他教科との協力や「総合的な学習の時間」も視野に入れ、さらに学習の深化を図る必要がある。

2　論理的文章を書く学習を通して、社会人として必要とされる書く力の基礎を育てる指導の工夫

1．単元名　論理的文章の書き方を学ぶ。

2．教材　論理的文章作成のためのワークシート

3．単元の目標

(1)　必要な情報を収集し、論拠として活用する。

(2)　読み手に分かりやすい筋道の通った文章を書く。

(3)　論理的な文章展開の型を身に付ける。

(4)　第三者からの評価を受け止め、文章作成に役立てる。

4．単元設定の理由

文章を書くことを苦手とする理由に、生徒はしばしば、「書きたいことがない」、「何を書いていいか分からない」ということを挙げる。文章作成に意欲的に取り組むには、人に伝えたいと思うような自分の考えをもつことが必要であり、それには、情報の収集と蓄積が有効であろう。一方、読み手の立場からすると、内容に魅力のない文章は、なかなか読みづらいものである。書き手の伝えたいことがよく分からない文章や、筋道の通っていない文章も同様である。つまり、人に読んでもらうことを目的とした文章を書く際には、読み手にとって知る価値のあることを、筋道の通った構成で文章化することが必要なのである。これは卒業後、社会人として職場や地域で様々な文章を書く際に必要なことでもある。

高校生が文章を書く経験は、文学的文章や、自己の体験や心の動きを中心に据えたいわゆる「作文」に偏りがちである。また、以心伝心に頼りがちで、筋道を通して、過不足なく、相手の理解に応じて表現しようという意識は高いとはいえない。しかも多くの場合、生徒の書いた文章の読者は彼らが親しく接している範囲に限られるので、そのような配慮がなされないことが多い。

こうした背景を踏まえて本研究では、「論理的文章の書き方を学ぶ」という単元を設定した。「論理的文章」とは、筋道が通り、論旨が確実な根拠に支えられて、展開されている文章のことである。新学習指導要領においては、従来の教材に加えて、記録や報告、意見文といった、いわゆる「実用的文章」を扱うことが示されている。今回設定した単元はそうした実用的文章を書く力を育てることにもつながるものである。

私たちはこの単元で、ワークシートを使って筋道の通った論理を構成し、文献の調査や聞き取りをするなどの情報収集によって論拠を確実にし、文章化する際に矛盾のない展開ができるように工夫した。また、グループ学習を取り入れることで、互いの持つ情報・発想を共有し、そこから読み手にとって知る価値のある新しい情報を生み出すということもねらいとした。

5．学習活動の概要（6時間扱い）

(1)　第1次・ガイダンス（1時間）

①　単元の学習計画を確認する。

・論理的な文章を作成するための方法を学ぶ。

・題材は「日本の文化」とする。

・情報や意見を交換し合うためにグループ学習を中心とし、文章作成は各個人で行う。
・家庭や地域等に発信する。

② グループで一つテーマを決め、導入部の作成を行う。

(2) 第２次・情報収集（２時間）

① グループ内で話し合い、テーマを具体化するとともに主張したいことを明確にする。

② 学校図書館で書くための資料集めをする。

③ 地域の図書館やインターネット、インタビューなどで各グループごとに資料を収集する。

(3) 第３次・ワークシートによる学習（１時間）

『本時の指導』参照

(4) 第４次・文章化（１時間）

第３次のワークシートを基にして個人で文章化する。

(5) 第５次・発信（１時間）

① 家庭や地域等、学校外の方から評価してもらう。

② 他人の評価を基に、自分たちの文章について振り返り、自己評価をする。

６．指導の工夫

(1) テーマは生徒が選びやすく、幅の広い、「日本の文化」とした。

身近なものから専門的なものまで幅広い題材があり、生徒が調べる際に情報量が多く、興味関心を喚起しやすいテーマとして、「日本文化」を選んだ。

(2) 論理の組み立て方を学ぶために、論理的文章作成のためのワークシートを用いた。

教材のワークシートはビジネス文書の作成方法を参考にし、高校生向きに工夫した。ワークシートの欄に記入した内容を、指定された順番通りに文章化すれば、自己の主張を論理的に述べる文章ができるようにした。

(3) 文章構成は、序論・本論・結論の三段構成を基本とした。

(4) 文章化（第４次）以外にはグループ学習を取り入れた。

グループで情報を集め、論理構成を考えさせることにより、論理のつながりを相互に確認し、グループ内で評価し合えるようにした。

(5) 発信の対象を学校外の社会人とした。

授業とかかわりのない社会人（家庭、地域等）を発信の対象に設定し、相手に応じて適切な文章を書くことを心掛けさせた。また、社会人による評価をもらい、自己評価と今後の学習に役立てた。

７．本時の指導（４／６時）

(1) 本時のねらい

① ワークシートを利用し、主張を述べるための論理的なつながりを考えることができる。

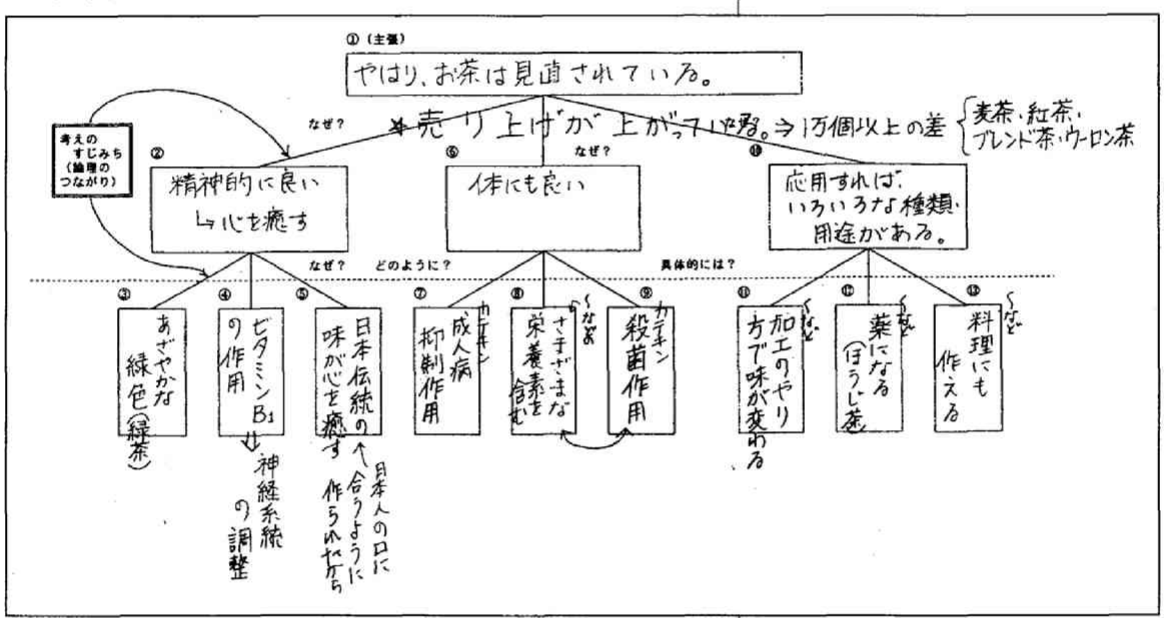
② グループ内で討議し、入手した情報を取捨選択したり、再構築したりできる。

③ 他のグループのものと照らし合わせることで、自分たちの文章作成に役立てることができる。

(2)　本時の学習の流れ

学　習　の　流　れ	教師の指導・助言 （◎留意点、◆評価）
本時の学習の確認 ①　個人で集めた情報の内容をまとめ、グループで活用する。 ②　決められたテーマについて、ワークシートに基づき、グループで論理の構成をする。 ↓ **グループ学習** ・ワークシートを作成する。	◎　このワークシートの内容がそのまま文章の本論の展開になることに注意を促す。 ◎　欄と欄をつなぐ線は論理のつながりであることを意識させ、上の欄の内容が下の欄の内容を要約しているように考えさせる。 ◆　論理構成に矛盾はないか。 ◆　互いの情報を交換し、より良いものとして情報を再構築しているか。 ◎　ワークシートの記入に戸惑っている時は、発想の手がかりとなるような助言を与えるよう配慮する。

（生徒のワークシート作成例）



↓

相互評価・自己評価 ①　2班一組で、互いに報告をする。 ②　論理的つながりの良い点や矛盾点を指摘し合う。	◎　相手からの評価内容を次回の文章作成に生かせるように意識させる。

(3)　評価の観点

①　論理の構成を考え、矛盾点がないよう、本論を構成することができたか。

②　グループ内で協力して得た情報を交換し、情報を取捨選択して活用することができたか。

③　次回の文章作成を意識して、ワークシートを適切に作成できたか。

8．生徒の学習状況

(1)　第１次・第２次

まず最初に「日本の文化と言えるものを挙げてみよう」とグループで話し合わせたところ、強い関心を示した。「自分たちの国の文化と言えるものをどれだけ知っているのか」、「これは日本独自の文化と言えるのだろうか」「この文化のルーツはどこなのだろうか」等、普段何気なく接しているものを見直していこうという態度が随所で見られた。

その中からグループで一つ、興味があるものを選ぶことになると、興味関心の違いもあり、迷っているグループもあった。今回はグループの利点を生かして作業するので、グループで協力してできそうなものを選ぶよう指示した。各グループの主張は、「着物の良さを認識しよう」「なべは親善友好の手段である」「木造建築は日本の風土に適している」「お茶は見直されるべきだ」等であった。ここでは序論の構成を考えた。序論を書くためには、読者の興味を引いたり、話に具体性を持たせたりするために、新聞やニュースなどで知る一般常識が大切であることを学んだ。

情報収集に関しては、図書館で本を探すほかに、インターネットで検索していたグループもあった。インターネットでテーマについて調べると、効率良く必要な情報を集めることができ、第３次の学習にスムーズに進めていた。

(2)　第３次

各グループの主張を述べるための論理をワークシートを用いて組み立てた。論理に矛盾がないか、生徒一人で判断するのは難しいが、グループで読み、検討し合うことによって、よく考え、論理の妥当性について気付く生徒が多かった。

ワークシートに関しては「ピラミッド型になっているので、論が見やすく考えやすい」「例と例のつながりが一目で分かる」という発言が多かった。

また、情報をたくさん収集したグループは、それらの中から必要かつ有効な情報を選び出すのに苦労していた。読み手の立場に立ち、分かりやすく、共感を得やすい例を取り出した方がよいと助言すると、その観点から選ぶことができ、ワークシートの作成に意欲的に取り組んでいた。

(3)　第４次・第５次

下準備に時間をかけたこともあり、手際よく書くことができた。原稿用紙に何を書いてよいのか分からないという生徒はいなかった。「プリントに従って記入していくことで、800字がすぐに埋まって良かった」という生徒がいる反面、「具体例に字数を取られて結論が弱いものになってしまった」と振り返りをする生徒もいた。

学習後の評価は、家庭や地域の方などの第三者に読んでもらったことで、生徒は重く受け止めていた。また、どうしたら読者に読みやすいものになるか、という反省が生まれた。自己に対する評価としては「独りよがりな表現を避ける」「常に論理の流れを意識して書く」等の振り返りが見られた。

9．考察

(1)　成果

・自分たちが言おうとすることを読み手に理解してもらうために、序論の部分で触れるべき常識的な事柄を書き出すのが難しかった。しかし、世の中に対する幅広い知識が必要であると認識した点は、成果と言える。

・グループで学ぶことによって、友人の意見に少なからず刺激を受けていた。普段会話している友人の違う一面を発見することができた。

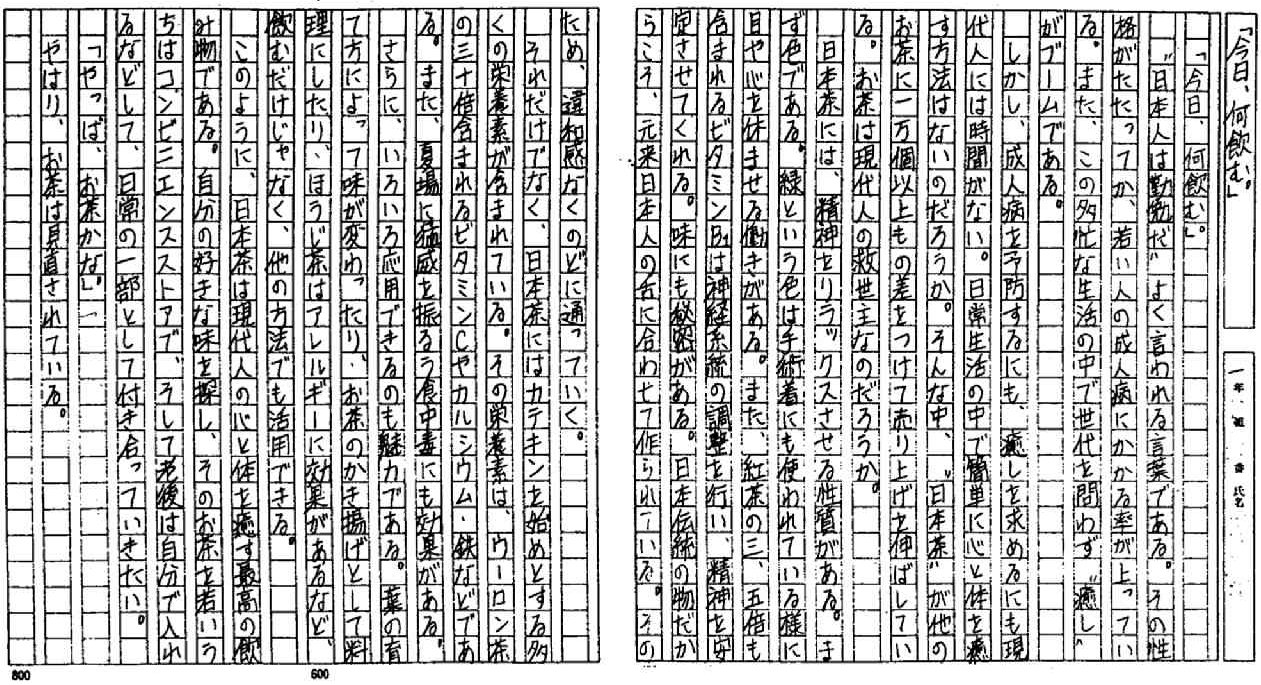
・ワークシートで学ぶことにより、論理の矛盾に気をつけようという意識が芽生えた。また、そのワークシートを見直すことで、論理の流れのおかしいところを生徒が自分自身で発見していた。

・文章を書く上で基本的な三段構成を学んだ。これを基にして、頭括型、尾括型等の他の構成へのチャレンジもできる。

・図書館での情報収集により、材料不足で字数が埋められない生徒はいなかった。また読書への意欲も芽生えた。

・社会人に見せることで、生徒同士によるものとは違った現実的な評価が実感できた。

〈生徒作品例〉



「今日、何飲む。」

一年　組　番　氏名

「今日、何飲む。」

"日本人は勤勉だ"よく言われる言葉である。その性格がたたってか、若い人の成人病にかかる率が上っている。また、この多忙な生活の中で世代を問わず"癒し"がブームである。

しかし、成人病を予防するにも、癒しを求めるにも現代人には時間がない。日常生活の中で簡単に心と体を癒す方法はないのだろうか。そんな中、"日本茶"が他のお茶に一万個以上もの差をつけて売り上げを伸ばしている。お茶は現代人の救世主なのだろうか。

日本茶には、精神をリラックスさせる性質がある。手ぜ色である。緑という色は手術着にも使われている様に目や心を休ませる働きがある。また、紅茶の三、五倍も含まれるビタミンB1は神経系統の調整を行い、精神を安定させてくれる。味にも秘密がある。日本伝統の物だからこそ、元来日本人の舌に合わせて作られている。その

ため、違和感なくのどに通っていく。

それだけでなく、日本茶にはカテキンを始めとする多くの栄養素が含まれている。その栄養素は、ウーロン茶の三十倍含まれるビタミンCやカルシウム・鉄などである。また、夏場に猛威を振るう食中毒にも効果がある。

さらに、いろいろ応用できるのも魅力である。葉の有効活用によって味が変わったり、お茶のかき揚げとして料理にしたり、ほうじ茶はアレルギーに効果があるなど、飲むだけじゃなく、他の方法でも活用できる。

このように、日本茶は現代人の心と体を癒す最高の飲物である。自分の好きな味を探し、そのお茶を若いうちはコンビニエンスストアで、そして老後は自分で入れるなどして、日常の一部として付き合っていきたい。

やっぱ、お茶かな。

やはり、お茶は見直されている。

(2)　今後の課題

・序論の内容を考えるために、ニュースや新聞などによって得られる一般常識をあらかじめ準備しておく必要がある。

・情報を取捨選択する力が、文章化の段階でも大切であることを説明する必要がある。

・具体例をまとめて抽象化する訓練が必要である。

・生徒の興味、関心は多岐にわたっており、学校図書館の一層の活用が必要である。

3．様々な文章を読むことを通して、社会人として必要とされる読む力の基礎を育てる指導の工夫

1．単元名

古典や様々な現代の文章を読み比べる。

2．教材

「末広がり」（『狂言記』　岩波書店刊　新日本古典文学大系）

3．単元の目標

(1)　文章から適切に情報を読み取り、論理の展開をとらえる。

(2)　読み取った情報を、適切に整理し検討する。

(3)　適切に整理・検討したうえで、情報を活用する。

4．単元設定の理由

新学習指導要領において、教科「情報」が設置されることに象徴されるように、生徒への情報教育の必要性は高まっている。情報教育というと、コンピュータやインターネットなどを活用するための知識と技術の修得に目が向きがちである。その一方で、我々の行った実態調査によると、多くの生徒は、情報そのものを収集し、活用（整理・検討）する力が不十分であることが分かった。たとえば、氾濫する情報の中で、複数の情報を収集し比較・検討をせずに、少ない情報のみで自分の意思決定や判断をする傾向が強い。また、不確かな情報に対して、根拠を確かめることをせず鵜呑みにしてしまったり、さらには、それをそのまま、あるいは自分の意見を加えて、あたかも確かな情報として流したりする傾向がある。

これまで、文章を論理的に読み取る力を養う指導は、すぐれた現代文を教材として取り上げることでなされてきた。しかし、現代の情報社会で社会人として生活する上では、様々な情報を適切に読み取り、整理し、検討する力、論理をとらえる力が必要になる。今回は、現代の情報社会とは、一見無縁とも見える古典世界（ここでは近世）における「情報の扱い方」を客観的・論理的に読み取る学習を通して、その成果を様々な現代の文章の読みに活用できるようにしたいと考えた。

本単元では、新学習指導要領の「国語総合」を視野に入れ、古典教材に加えて、新聞記事、インターネットから採取した教材、指導者の作成したパンフレットなどの様々な現代の文章を読み、社会人に必要な情報を適切に読み取り、整理し、検討する力をさらに確実なものとすることを目指した。こうした学習を通して、古典に描かれている世界が、今を生きる我々の生活にも重要なつながりを持つことを理解させるとともに、様々な文種や形態の文章を主体的かつ論理的に読む姿勢をもたせることがねらいである。

これらの学習活動は、現代の生活や人生についての考えを深め、たくましく生きる力を身に付けさせる指導の一環としても位置付けられるものである。

5．学習活動の概要

第１次・導入（２時間）

①　現代の社会・生活における情報との接し方について考える。

②　古典教材（『狂言記』「末広がり」）に関して、狂言の説明を聞く。

③　教師の範読後、３グループで本文を音読する。

④　文章の特徴をつかみ、語句の意味を調べながら現代語訳をする。

⑤　論の進め方を読み取る。

第２次・展開（３時間）

①　『本時の指導』（３／６）参照

②　第１次・導入③で編成したグループごとに、根拠の明らかでない事例に対する予防策・善後策を考える。そのための情報収集活動について、計画・検討する。

③　学校図書館で資料を収集する。

④　調査した結果を踏まえ、グループごとに発表する事例を割り当て、発表の準備をする。

第３次・まとめ（１時間）

①　事例別に各班が集まり、問題点や予防策・善後策について発表する。

６．指導の工夫

(1)　身近にある問題を取り扱う。

社会人として必要とされる情報収集能力・分析能力を養うために、日常生活で身近なところにある情報を収集し、それを基に自分の意見を構築させるようにした。テーマとして、「だます」「だまされる」ことをあげ、情報収集と分析が社会人として必要であることを認識させた。

(2)　幅広い分野から教材を選ぶ。

情報収集の重要性が、現代に限ったものではないということを認識させるために、古典作品も含め、幅広い分野の文章を教材とした。 教材として、

古典作品　『狂言記』「末広がり」

現代文　・小説「植木屋」「写真班」梅崎春生著（筑摩現代文学大系『田宮虎彦・梅崎春生集』）、新聞記事、パンフレット（指導者作成）、「ワニがほしい」（指導者作成）、「不要品交換」の顚末（指導者作成）

を選んだ。特に『狂言記』「末広がり」については、情報収集や分析が社会生活をする上で普遍的に重要であることを認識させることができるばかりでなく、会話文であるという特徴を生かして、対話の中から論の展開を見出せるようにした。

(3)　グループ単位での学習活動をさせる。

古典教材の音読に当たり、登場人物の人数である３人を一組としてグループ編成をした。音読を登場人物別に役割分担させ、論の展開をつかみやすくした。また、その後の事例研究での少人数での討論や、情報収集活動・発表の際にこのグループ編成を活用した。

また、情報を分析するにあたり、「個人でのワークシート作成」・「少人数グループでの情報収集と検討」・「クラス全体での発表」と形態を工夫することによって収集した情報が検討できるようにした。これにより、様々な角度から、情報を分析できる力を養うようにした。

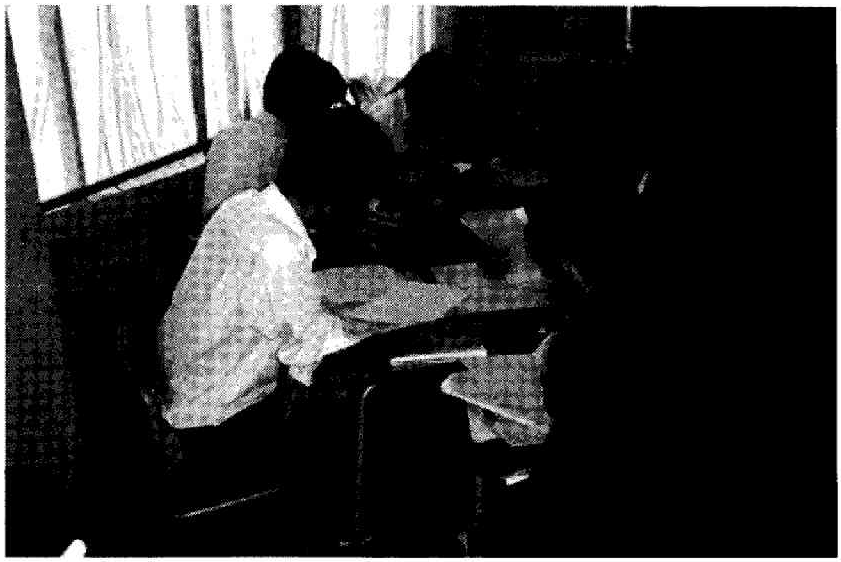
7．本時の指導（3／6）

(1) 本時のねらい

① 古典作品にある、現代社会にも通じる普遍性を理解する。

② ①を様々な文章（現代文5種類）に応用し、論理の展開を読み取り、書かれた情報を的確に判断し、批判する。

③ 課題意識をもって文章を読む。



(2) 本時の学習の流れ

学　習　の　流　れ	教師の指導・助言（◎留意点、◆評価）
1『狂言記』「末広がり」を読み、情報量の不足と、解釈の余地を残した情報の受容からくる問題点を指摘する。 ↓	◎すりと太郎冠者のやりとりに出てくる「末広」（扇）についての情報に着目させる。 ◎その情報の曖昧さを確認させる。 ◆論理展開を読みとることができたか。
2『狂言記』の内容から、人から聞いた情報を基にして、聞き手がその対象を特定していく過程を確認し、ワークシートに記入する。 ↓	◎「地紙よく」という情報から思い浮かぶ物を多くあげさせる。身近な物から見つけさせる。多くが消去されることを、見て分かるように板書する。
3 現代文5種類の事例を読み、1．2から得た内容を応用し、ワークシートに問題点を記入する。（グループ活動）	◎古典教材からの発展学習であることを意識させるために、『狂言記』「末広がり」を分担読みした時のグループで活動させる。 ◆グループ内で活発な話合いが行われているか。 ◎問題点の指摘は、事例本文中の該当箇所の指摘のみに終わらないよう、その理由も記入させる。 ◆事例の情報を的確に判断し考察しているか。

(3) 評価の観点

① 『狂言記』「末広がり」の内容を現代文の読みに応用することができたか。

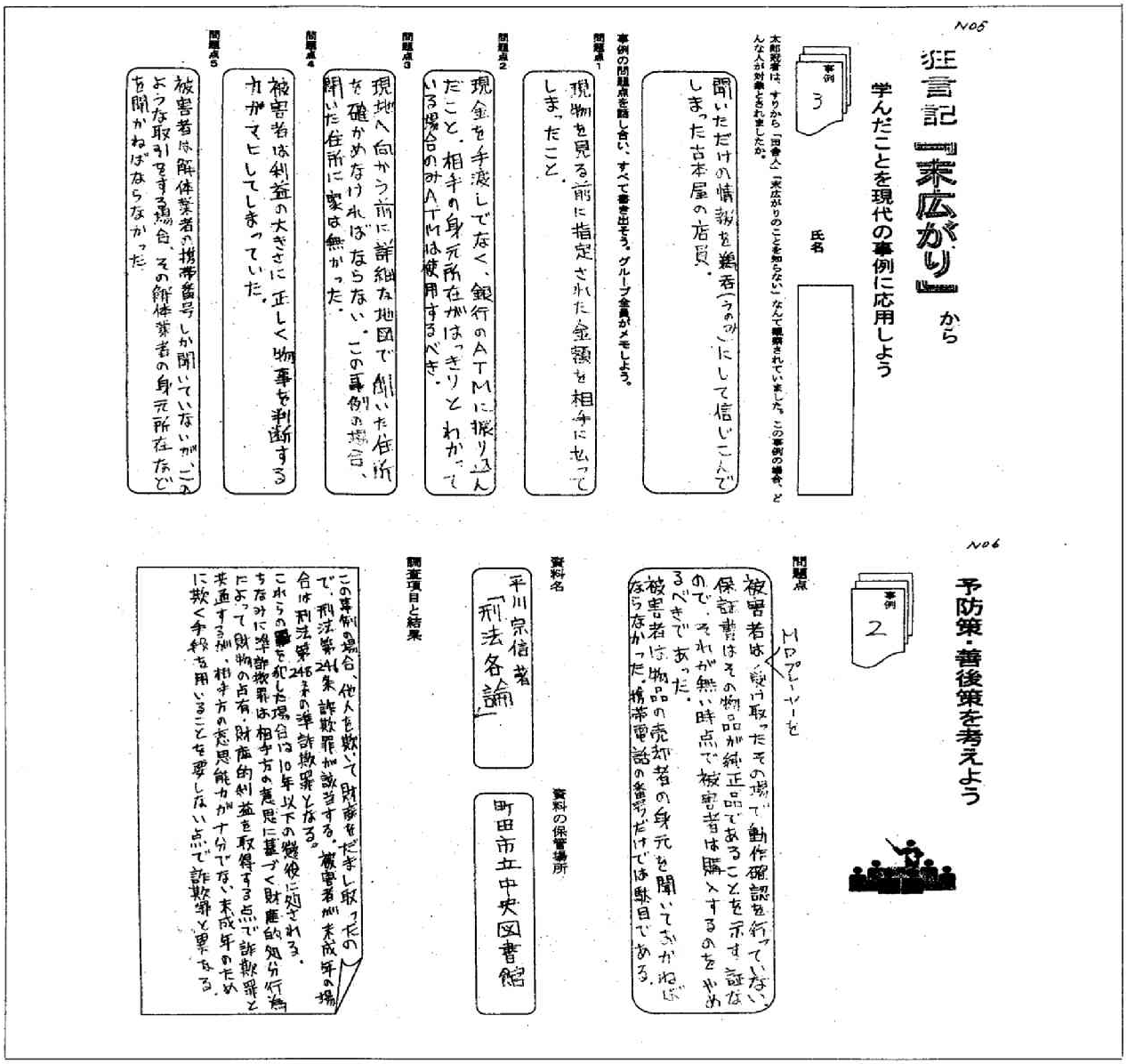
② 情報を的確に判断し、問題点を指摘することができたか。

8．生徒の学習状況

(1)　第１次

『狂言記』「末広がり」の文章の長さに抵抗を感じたり、狂言独特の言い回しや会話文から難しいと考えたりする生徒もいたが、グループ単位の音読を通じて、調子の良さやリズムになじんでいった。現代にも引き継がれている京言葉の語尾や若者言葉が文中に散在していることを発見し、古語と現代語とのつながりを意識できた。また、情報に翻弄されてしまう話は、現代社会にも通じることなので、身近な話題として読むことができた。

〈生徒の学習プリント記入例〉



(2)　第２次

「情報が少ない」ことと「情報に解釈の余地がある」ことから、誤解や不都合が生じることを、『狂言記』「末広がり」から読み取り、現代文に応用していった。予備校の生徒募集のパンフレットや不要品販売の事例では、自分たちにも関係がある身近な問題として考えることができた。また、インターネットや小説の事例では、臨場感や、登場人物の心理

を読み取ることができた。グループで問題点を指摘し読み取る活動の中で、互いの着眼点の違いや、問題意識の持ち方の違いを知り、視野を広げることができた。

問題点への対策や善後策を調べるため、法律関係・心理学関係の本を中心に調査した。グループで協力して、必要な情報を収集することができた。また、家庭でインターネットを活用した者もいたが、情報量が多く的確に選択するのに苦労していた。

(3) 第3次

第2次で取りあげた事例ごとに、予防策・善後策を一覧にして張り出し、互いに読み合い、感想を話し合った。全員がすべての事例に目を通しているので、課題が共有でき、他のグループの成果との比較ができた。その結果、自分たちの調査結果の妥当性を確認できた。また、同じ文献を取り上げた場合でも、引用部分が異なったり、同一引用部分でも違った解釈に接して、自分たちの調査結果の見直しや、再確認ができた。

9．考察

(1) 成果

① これまで活字になるとすべて信じ込んでしまう傾向にある生徒が、文章を批判的に読めるようになった。

② 文章を客観的に読もうとする姿勢が見られるようになった。

③ 『狂言記』「末広がり」の発展学習として善後策・予防策を考えるうちに、普段進んで読むことのない、様々な文章を読む必要性に、生徒自身気付くことができた。

④ 『狂言記』「末広がり」の学習から、古典の世界でも現代のような情報の活用の仕方があることが分かり、自分たちの生活を見直すことができた。

⑤ 調べた結果を他のグループの結果と照らし合わせることができた。同じ資料を参照していても、違う箇所が引用されていることや、取り上げ方が異なることもあった。そこから、資料の精査や精読の必要性を感じることができた。

(2) 今後の課題

① 古典と現代文の両方を同じ単元で扱えるような教材の収集をするためには、いろいろなジャンルにわたる読書体験が必要となる。それには、指導者個人の研修を基盤として、より広い情報収集が必要である。

② 教材を選ぶ時の提示の仕方については、生徒は、○○%・○割というような数値や表やグラフについて、あまり検討を加えず、そのまま信頼している場合が多い。数値化されている対象についての知識や理解を深め、数値や表やグラフの引用されている意図の読み取りや、その信頼性の確認についての意識をさらに高める必要がある。

③ 学校図書館を有効に活用するため、司書教諭及び学校図書館司書との連携をよりいっそう進める必要がある。年間指導計画やその単元の指導案を提示し、必要な資料の準備に生かすことができるような配慮が必要である。

④ 生徒がインターネットで資料検索を行うようになった現在、情報リテラシーの育成についても、これからの課題として必要である。著作権の尊重や、有害情報に対する指導、併せて、コンピュータウィルスを持ち込まない検索の仕方や、人権に対する意識や配慮などの情報倫理に関する指導を行っていく必要性がある。

Ⅳ　まとめと今後の課題

1　研究のまとめ

今年度私たちは、情報の活用を通じ、社会人として必要とされる言語能力の基礎の育成を図るため、実態の調査と指導法の研究をし、授業を実践してきた。社会の変化に適応する力を身に付けていくためには、特に論理的に考える能力が必要であるという考えのもとに授業を展開した。論理的思考を形成するには、生徒個人のもとに蓄積された情報では不十分なので、各分科会ではより広く情報を活用させる工夫を考え、授業に取り入れた。

「話すこと・聞くこと」の領域では、話題を共有できる身近な題材について、グループごとに必要な情報を取材し、自分たちの主張を相手に伝えるため、論理的な構成を工夫し、発表する学習を展開した。聞き手は、相手の話をメモを取りながら的確に聞き取り、自分の意見を形成するための参考にする。この一連の授業を通じ、公的な場で話すときの効果的な構成の作り方や聞き方を学習することができた。

「書くこと」の領域では、生徒の経験が、文学的文章や自己の体験や心の動きを書くことに偏っている実態を考慮し、論理性のある文章を書かせることを目指した。ワークシートに記入することによって、論理的文章に抵抗感のある生徒も自分の意見を筋道を立てて書くことができた。また、完成した作品を回覧板形式で発信することにより、相手や場に応じた表現の工夫の必要性も学ぶことができた。

「読むこと」の領域では、『狂言記』 から、対話に含まれる論の進め方を読み取り、その内容を活用し、現代の事例の情報を批判しながら読むことに応用していった。パンフレット・体験談・掲示物・小説と様々な文章を読んでいく中で、情報を活用する方法を学び、古典世界と現代社会の連続性を学ぶことができた。

これらの学習を通して、生徒たちは、論理的に考える中で、話し・聞き、書き、読むことが、社会人として様々な場面で必要になってくる能力であることに気付いた。そして、情報を有効に活用し自分の思考や意見を構成することの必要性と、その効果的な方法を学ぶことができた。

2　今後の課題

(1)　グループ単位の学習をするときの、構成する生徒個人個人の能力の向上と、意欲関心の持続と、発表の効率についてさらに研究を進めて行く必要がある。

(2)　情報通信網の一般社会への普及はめざましいものがある。生徒の提出した課題もそこから得た情報を基にしたものが多くなってきている。指導者はそれらに対する評価の方法を考え、生徒の情報に対する信頼性を見分ける目や断片的な情報を統合する技術を育成する必要がある。

(3)　各学校の情報センターである学校図書館との連携を密にして、指導計画の中に図書館の利用を位置付け、情報活用にかかわる指導を充実する必要がある。併せて、地域の図書館や博物館・資料館など、学校外の施設の資料を活用する習慣を身に付けさせるための指導法の工夫が、これからの生涯学習の基礎として望まれる。